

## ウクライナ人たちが徴兵を避けるために市民権を返上

74%の男性と 65%の女性が、パスポートを返上することを  
選ぶと宣言——フェイスブック調査

<https://www.rt.com/russia/z589300-ukrainians-renounce-citizenship-bezuglaya/>

RT

December 19, 2023



ウクライナ人の大多数が、ある主導的議員によるフェイスブックの世論調査に対し、徴兵されるの危険を避けるためなら、自分たちの市民権を放棄する方がよいと言った。

一連のフェイスブックへの投稿で、ゼレンスキー大統領の与党議員である Mariana Bezuglaya は、あらかじめ女性の議員たちに対し、軍事産業の「地位を高める」ために、かりに動員を強制されたとしたらどうするか、これを避けるために、ウクライナの自分のパスポートを返上する意志があるか否かを訊ねた。この議員は、戦線の立場では現在、女性は問題外であることを強調したにもかかわらず、3,800 以上の回答者の、ほぼ 65%が、その危険を被るよりは、自分の市民権を放棄する方がよいと言った。

2 度の追加の世論調査で、当議員は、もしかして女性たちは、少なくとも将来可能性ある動員の軍事的権威に、登録されることを考えてみる気はないか、これは男性たちに動員の境界を再開するためでもあり、すでに 2 年の兵役を終えた人々の除隊のためでもある、と言った。その問いのそれぞれに対し、たった 17%と 22%の回答者だけが、合意した。

月曜日に行われた最後の「実験的調査」で、ベズーラ (Bezuhla とも綴る) は、男性たちにただ 1 つの質問をした：——「動員されないために、私はウクライナの市民権を放棄する

用意があるか？」… 4,300 以上のユーザーがこの世論調査に参加し、その 73%が、ウクライナのパスポートを保持することは、そのリスクに値しないと主張した。

ベズーラは現在、「防衛と情報担当、国家安全保障国会委員会」の副議長を務めているが、2022 年 5 月に、兵役不服従の兵士を裁判なしに処刑する許可を、ウクライナ官憲に与えたかもしれない法案を提出したことで、最もよく知られている。

今月早々、この議員は、国際義勇軍デーを設けて、軍隊にすでにサイン・アップした、すべての人々に感謝した。がしかし、より多くの入隊者を要求し、女性もこれに参加するように求めた。この 35 歳の女性は、彼女自身が 2015 年に兵役訓練を経験している主張したが、それはキエフ政府が、ドンバスの住民に対して、「反テロリスト作戦」を行っていたときだった。

キエフのもっと多くの兵士を募集する運動は、それが失敗に終わった、夏の反撃攻勢に続いて起こったが、それは、ロシア防衛省の推計によれば、ウクライナに 12 万 5,000 以上の兵士を失わせたものだった。

先月、ゼレンスキーは徴兵制度を改革する「包括的な提案」を約束したが、まだこれは通告されていない。ロシア情報局によれば、西側のウクライナ支援者たちは、この徴兵を、ティーンエイジャー、年配者、それに女性にまで広げることを要求している。

関連情報：「ゼレンスキーが徴兵の勢いを弱める——ウクライナ・トップ将軍」 <https://www.rt.com/russia/589291-ukraine-top-general-criticizes-zelensky/>

Valery Zaluzhny が認めた——大統領によるリクルート・チーフらの首切りによって、動員に水がかけられたらしい

関連情報：「誰がウクライナのトップ将軍を、あえてスパイしたか？」 <https://www.rt.com/russia/589257-zaluzhny-bug-zelensky-popularity/>

Valery Zaluzhny へのスパイ行為試みのうわさが、背後に誰がいるかの憶測を呼ぶ

[訳者 Greatchain 注]

これはずっと前から報じられている、狂ったウクライナの様子のひとつまにすぎない。ウクライナの国民は、団結して憎いロシアと戦っているのではない。彼らは、完全に狂った自国の大統領ゼレンスキーと戦っている。大統領より自国を棄てることを選ぶというのは、相当の覚悟でなければならない。世論調査で70%を越えるということは、実質的にはほとんど全員であろう。

これに対して、この気の毒なウクライナ人を助けると言って武器を与え、彼らの犠牲を構わず、死んでもいいからもっと戦えと言っているのが、西側であり、アメリカとわが国である。もしわが政府が「ウクライナ支援」という看板を掲げ、ウクライナ難民には特別の援助をするという方針を取るなら、わが国が助けているのは、ウクライナ政府の敵ということになる。それはそれでよいことだが、**あなた方はそれでよかったのか、それとも、そんなはずではなかったのか???** お伺いしたい。

ロシアとウクライナの紛争が、日本政府やメディアの売りつけようとするものでなかったことは、次のプーチン大統領の言葉によく現れている（スプートニク日本）：――

**「西側エリートはロシアの国家システム崩壊を画策、だが効果はなかった」**

**「米国は意図的にロシアと欧州を紛争に〈引き込んだ〉」**